



JAPAN



エキゾチックペット に関する 日本の意識調査

2021

要旨

日本におけるエキゾチックペット人気を受け、
エキゾチックペット利用とその問題に対する一般市民
の意識を明らかにするアンケート調査を実施。

- 日本では、3人に1人(33%)がエキゾチックペットに触れてみたい、6人に1人(17%)が飼ってみたいと回答。特に若い世代で人気が高かった。
- 感染症、動物福祉、絶滅危惧種、密輸、外来種の5つの問題について、68%がよく知らない・全く知らないと回答した。
- 情報提供を受けて、95%が問題だと思う・やや問題だと思うと回答し、最も重要な問題として60%が感染症、次いで18%が絶滅危惧種を挙げた。
- 95%が規制が必要だと思う・やや必要だと思うと回答。このうち必要だと思うと回答した割合は、年齢が下がるほど低下する傾向が認められた。
- 情報提供後も、25%が触れてみたい、14%が飼ってみたいと回答し、特に後者の減少幅は情報提供前と比べてわずかであった。
- 本調査から、日本ではエキゾチックペットに関する問題の認知度が低いものの、ひとたび知識を得れば問題意識を持つことが分かった。その一方で、特に若い世代に多い潜在消費者は、知識を得ても飼育意向を変えない傾向が見られた。
- エキゾチックペットに関する問題の解決に向けては、適切な規制の早期導入、一般への普及啓発による社会規範の醸成、さらに潜在消費者の行動変容と事業者側の取り組みが欠かせない。

※本調査ではエキゾチックペットを「一般的なペットとして飼われている動物以外で、特に外国産の動物や野生由来の動物」と定義。

ボルネオ島、クタイ・バラット、マハカム川。東南アジアはスローロリスやミドリニシキヘビなどエキゾチックペットとして取引される様々な種が生息している。©WWF / Simon Rawles

WWF

WWFは、100カ国以上で活動している環境保全団体です。1961年にスイスで設立されました。人と自然が調和して生きられる未来を築くことをめざして、地球上の生物多様性を守ることと、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷を小さくすることを柱に活動を展開しています。

2021年3月 WWFジャパン発行

無断転載をお断りします。転載をご希望の場合はWWFジャパンまでご一報ください。

本件に関する問い合わせ:

WWFジャパン(公財)世界自然保護基金ジャパン

communi@wwf.or.jp Tel: 03-3769-1714

東京都港区三田1-4-18 三田国際ビル3階

背景と手法

日本は世界有数のエキゾチックペット市場であり、カワウソ、ショウガラゴ、ハリネズミ、フクロウのほか、数多くの希少なカメやトカゲ、カメレオン、カエルなどの動物がSNSやマスメディアを通じて人気を集め、一般家庭やカフェ施設での飼育を目的に売買されている。実際、日本のフクロウカフェに代表されるエキゾチックアニマルカフェ（触れ合い施設）の数は、東・東南アジア地域で最多とされる。しかし、こうしたエキゾチックペット人気の裏に、**感染症、動物福祉、絶滅危惧種、密輸、外来種**といった問題が潜んでいることはまだ十分に知られていない。今回WWFジャパンは、エキゾチックペット需要と各問題に対する一般市民の認識や姿勢を明らかにするための意識調査を初めて実施した。

本調査は、2021年2月1日から3日にかけてオンラインアンケート形式で実施し、日本の人口構成比に基づき15歳から79歳の1,000人が回答した。調査ではエキゾチックペットを「一般的なペットとして飼われている動物以外で、特に外国産の動物や野生由来の動物」と定義した。



© Martin Harvey / WWF



© Kari Schnellmann

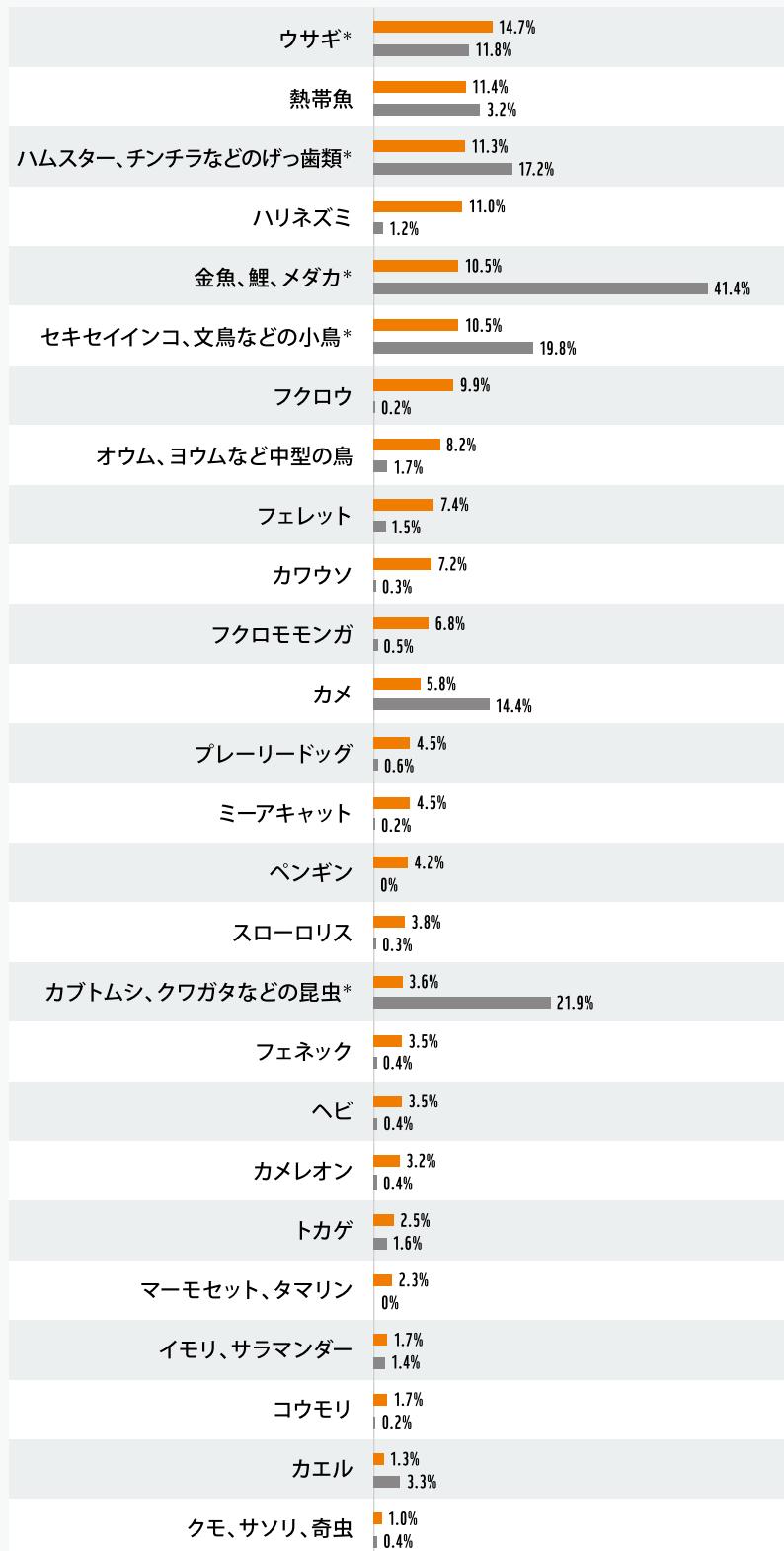


エキゾチックペットの飼育意向

犬猫以外で飼ってみたい動物の種類ランキング

以下の動物のリストを示して飼育経験と意向を尋ねた

■ 飼ってみたい動物 ■ 飼ったことのある動物



(N=1000)

犬猫以外の
動物の飼育経験 50%

一般的な動物*
を除く飼育経験 29%

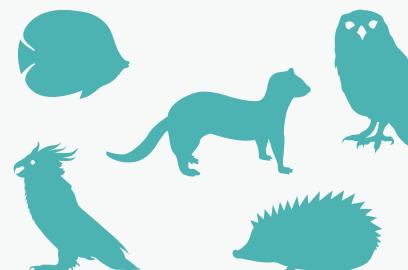
ウサギやハムスター、金魚、セキセイインコ、カブトムシ・クワガタなどの一般的な動物を除くエキゾチックペットについての集計。

本調査では、エキゾチックペットを「一般的なペットとして飼われている動物以外で、特に外国産の動物や野生由来の動物」と定義したが、動物ごとの明確な区分は存在しない。

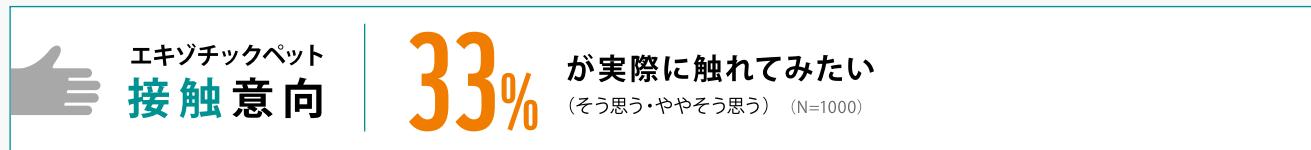
左記のリストでも、一般的な動物とそれ以外が明確に区別できないカテゴリが多くあるため、上記の飼育経験者の割合はあくまで概算値。

「飼ったことはない」が「飼ってみたい」エキゾチックペットへの関心

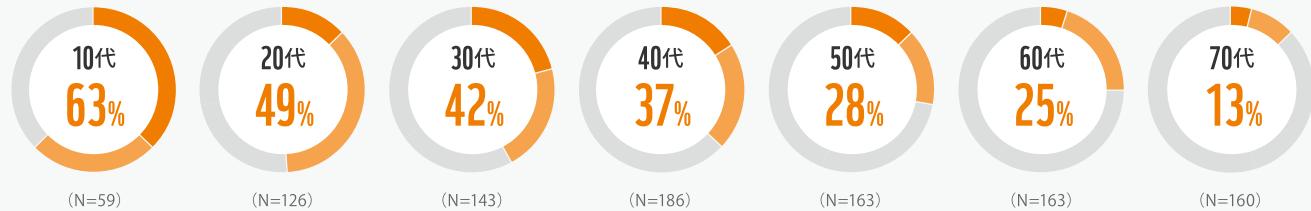
飼ってみたい動物の上位には、熱帯魚、ハリネズミ、フクロウ、オウム・ヨウムなど中型の鳥、フェレット、カワウソ、フクロモモンガなどのエキゾチックペットが挙がった。このほか、爬虫類や両生類、昆虫類を飼いたいとした人もいた。



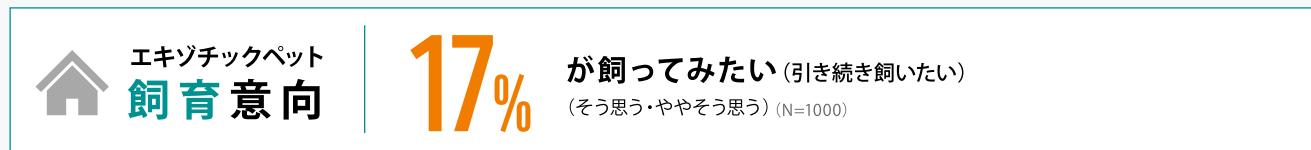
Q 実際に触れてみたいですか？



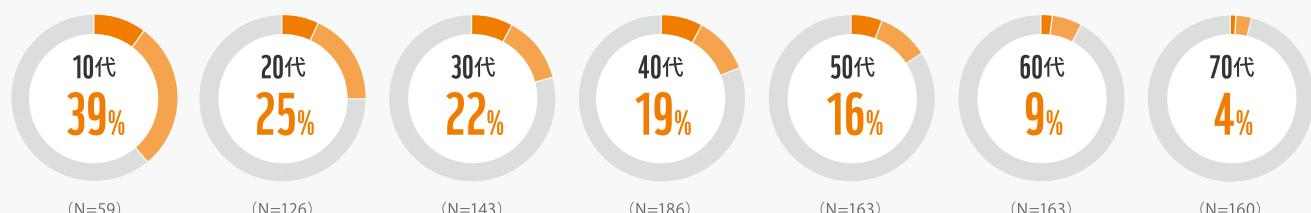
年代別 ■ そう思う ■ やや思う



Q 自分で飼ってみたい（引き続き飼いたい）ですか？



年代別 ■ そう思う ■ やや思う



飼っている・飼いたい理由

| | | |
|-----|------------------|-----|
| 1位 | 動物がかわいいから | 53% |
| 2位 | 動物に癒されるから | 43% |
| 3位 | 自分が好きな動物だから | 39% |
| 4位 | 動物と触れ合いたいから | 29% |
| 5位 | 動物を鑑賞したいから | 17% |
| 6位 | 家族が好きな動物だから | 16% |
| 6位 | 珍しい動物に興味があるから | 16% |
| 8位 | 動物が美しいから | 14% |
| 9位 | 動物がいないと寂しいから | 7% |
| 10位 | 珍しい動物を飼って目立ちたいから | 2% |
| 11位 | その他 | 1% |

(飼っている・飼いたい理由を回答した人 N=354)

若い世代で高い エキゾチックペットへの関心

10代は特に、エキゾチックペットに触れたい、飼ってみたいと回答した割合がおよそ2倍に上った。また、10代男女、20代男性、30代女性で触れてみたい割合が50%を超えた。

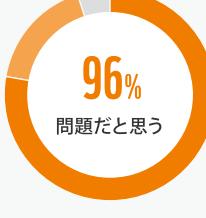
10代、20代はエキゾチックペットに関する情報をインターネット（ポータルサイト、動物園・水族館のサイト）、テレビ（番組・CM）、ツイッター等のSNSなど幅広い情報源から仕入れていることがわかった。

「飼っている・飼いたい理由」

飼いたい理由としては、「かわいいから」「癒されるから」が最も多く、犬・猫のような一般的な動物の飼育意向に通じると思われる。一方で、16%が珍しい動物への関心を理由に挙げた。

エキゾチックペットに関する問題への意識

エキゾチックペットに関する問題の認知度は低いものの、
5つの問題の提示を受けて、95%以上の人人が問題の重要性を認識

| エキゾチックペットに関する問題 | 問題の認知度 | 情報提供後 問題の重要性の認識 |
|---|--|---|
| 01 感染症 エキゾチックペットには、動物から人に感染する病気(動物由来感染症)のリスクがある。新型コロナウイルスも動物由来感染症のひとつである。 |  <p>68% が知らない</p> |  <p>96% 問題だと思う</p> |
| 02 動物福祉 エキゾチックペットの中には、一般家庭やカフェなどの施設での飼育に適さない動物もいて、精神的・肉体的に大きなストレスを受けている場合がある。 |  <p>79% が知らない</p> |  <p>94% 問題だと思う</p> |
| 03 絶滅危惧種 エキゾチックペットの中には、絶滅のおそれのある動物が多く含まれ、ペット取引によって、野生での存続が脅かされている種もある。 |  <p>66% が知らない</p> |  <p>95% 問題だと思う</p> |
| 04 密輸 日本に向けたエキゾチックペットの密輸が毎年発覚している。日本に持ち込まれた密輸動物がペット市場で流通していることが分かっている。 |  <p>64% が知らない</p> |  <p>95% 問題だと思う</p> |
| 05 外来種 エキゾチックペットが逃げ出したり、遺棄されることで生態系を脅かす事例が多く確認されている。 |  <p>61% が知らない</p> |  <p>96% 問題だと思う</p> |
| 上記5つの問題への意識(平均) | 68% が知らない (よく知らない・全く知らない) | 95% 問題だと思う (問題だと思う・やや問題だと思う) |

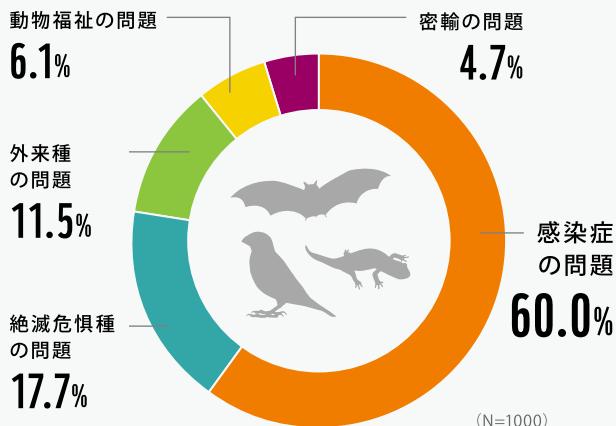
(N=1000)



エキゾチックペット利用に関して
最も重要な問題

感染症の問題が重要
と回答

60%



感染症に次いで 絶滅危惧種の問題を重視

感染症リスクを重視する傾向は、新型コロナウイルス感染症により関心が高まっていること、および人への直接的な健康被害への懸念があると考えられる。

感染症に次いで、18%が絶滅危惧種の問題を最も重要な問題として挙げた。動物福祉の問題は、知らない人の割合が79%と他よりも高かった。

エキゾチックペットの 取り扱い規制に対する姿勢

Q 日本のエキゾチックペットに関する問題と規制の現状(P7下)を受けて、規制強化が必要だと思いますか？

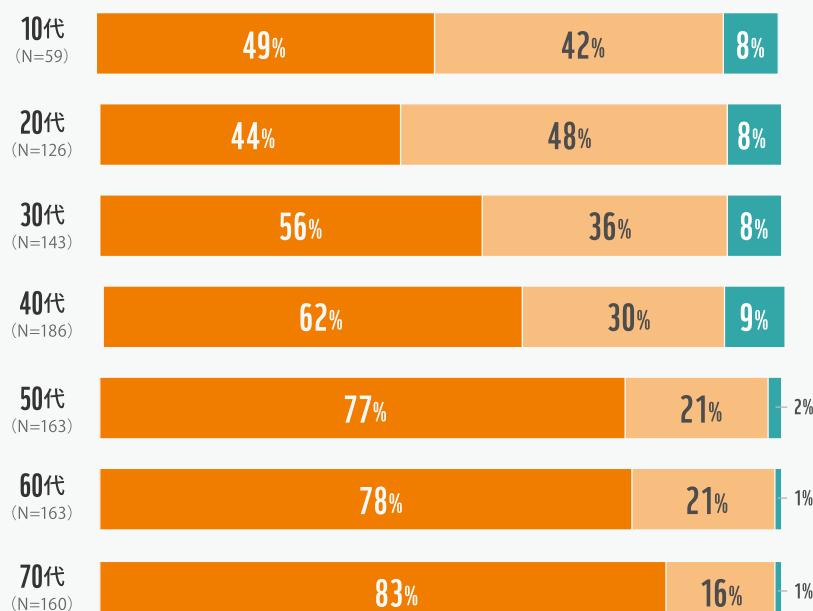


規制強化が
必要だと感じる人

95%

(必要だと思う・やや必要だと思う) (N=1000)

年代別 ■ 必要だと思う ■ やや必要だと思う ■ 必要ないと思う



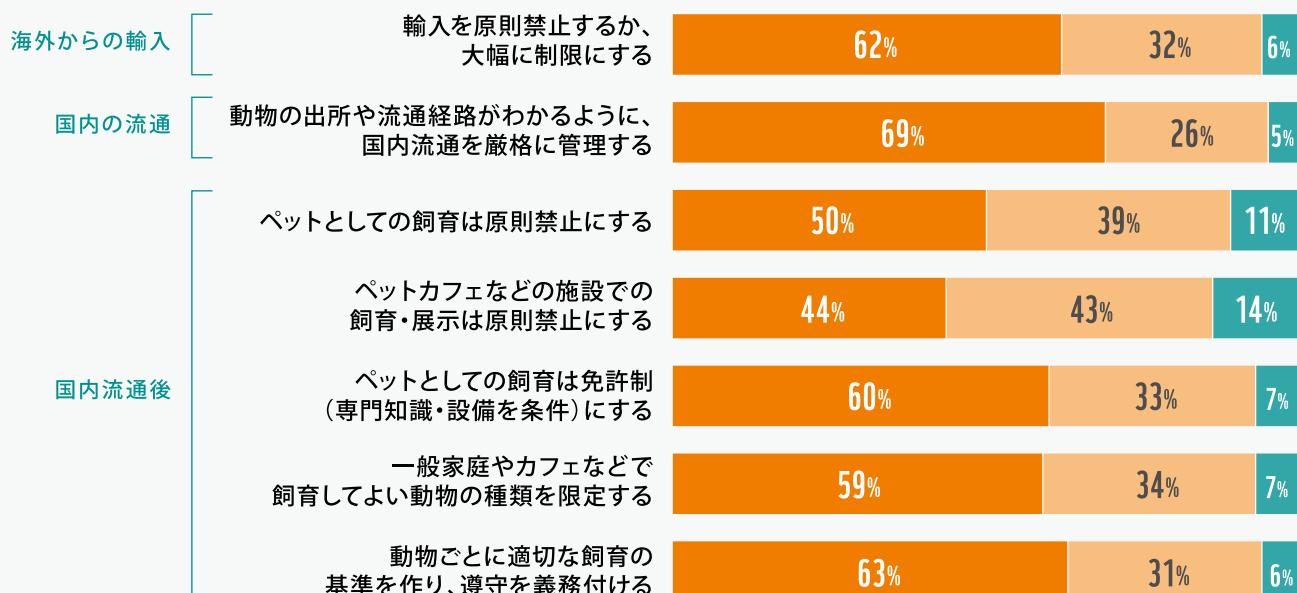
世代間で若干の温度差

規制強化が「必要」と回答した割合は全体で67%、「やや必要」とあわせて95%に上った。年代別に見ても、各年代で90%以上が、「必要・やや必要」と回答した。

一方で、「必要」と回答した割合は、50～70代では約80%であったのに対し、10～20代では45～50%にとどまった。また、「必要ない」と回答した割合は、50～70代のわずか1～2%に対し、10～40代では8～9%であった。

エキゾチックペットの規制強化に対する姿勢

■ 必要だと思う ■ やや必要だと思う ■ 必要ないと思う



(N=1000)

いくつかの規制強化案を示し、それらへの姿勢について尋ねた結果、90%以上が取引や飼育管理についての規制が必要・やや必要と回答（うち「必要」は59～69%）。さらに、一般家庭やペットカフェなどの飼育を原則禁止する規制についても、86～89%が必要・やや必要と回答した（うち「必要」は44～50%）。

〔規制の現状に関する補足〕

感染症

サルやコウモリなど、感染症リスクが高く法律で輸入が禁止されている動物が、国内では一般向けにペットとして販売されている。国内で繁殖された動物のほかに、密輸動物が紛れている可能性が疑われるが、こうした動物の国内での流通や飼育は法律でほとんど規制されていない。また、現在の規制は、将来の未知の感染症リスクに対する予防的視点から、エキゾチックペットの輸入や飼育を包括的に制限する規制にはなっていない。

動物福祉

日本の法律では、エキゾチックペットなど野生由来の動物の福祉に配慮した飼育基準を定めていない。このため、これらの動物が福祉を十分に満たされない形で、一般家庭やカフェなどでペットやふれあいの対象として飼育されている。

絶滅危惧種

日本の法律では、外国産の絶滅のおそれのある動物の国内取引を十分に規制していない。多くの種が、流通経路が不透明なまま取引されているため、生息地における密猟や個体数の減少に拍車をかけている懸念がある。

密輸

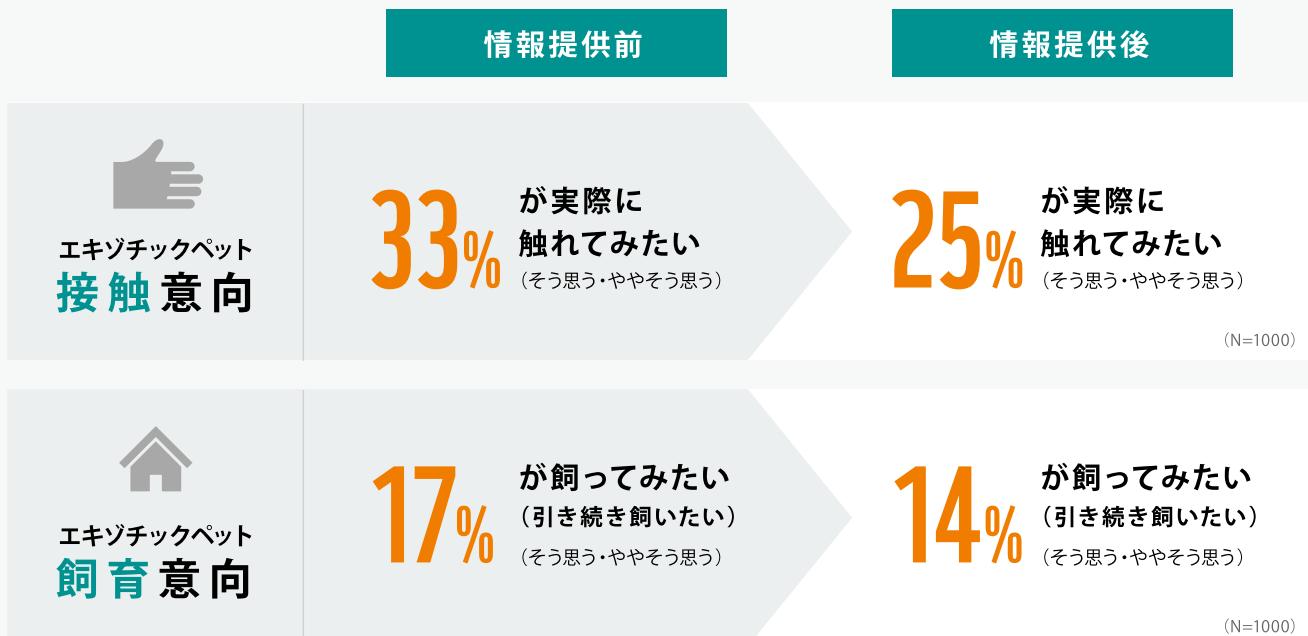
現在の日本の法律では、国内に流通している動物のほとんどについて、出所の証明を一切求められることなく販売ができる。このため、密輸品が紛れ込んでも、購入者は見分けるすべがない。

外来種

日本では、生態系への悪影響が明らかになったものを中心に一部の動物の輸入や飼育を禁止している。しかし、予防的視点から、エキゾチックペットの輸入や飼育を包括的に制限する規制にはなっていない。

エキゾチックペットに対する意識の変化

エキゾチックペットの問題についての情報提供の前後で、触れてみたい人の割合は33%から25%に、飼ってみたい人は17%から14%に減った。飼ってみたい人の減少幅は、わずか3%にとどまった。



エキゾチックペットに関する 日本の意識調査

結論

本調査から、日本ではエキゾチックペットに関する問題についての認知度が低いものの、ひとたび知識を得れば、95%が問題意識を持ち、規制強化が必要と考えることが分かった。その一方で、特に若い世代に多い潜在消費者は、知識を得ても飼育意向を変えない傾向が見られた。これらの結果は、日本におけるエキゾチックペットに関する問題の解決に向けて、以下の多面的な取り組みが必要であることを示している。

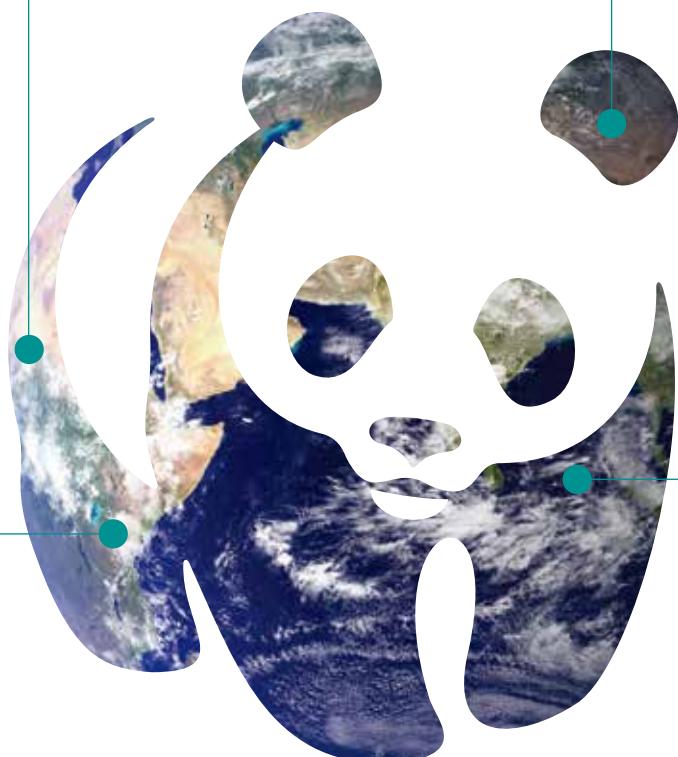
- 適切な規制を早期に導入する政策努力
- 一般への普及啓発による社会規範の醸成
- 潜在消費者にターゲットを絞った行動変容
- 販売・展示事業者による取り組み

WWFはこれらの実現に向けて幅広いステークホルダーと協力し、取り組みを進めて行く。

エキゾチックペットに関する 日本の意識調査 2021

68%

エキゾチックペットに
関する問題を
知らない



17%

エキゾチックペットを
飼ってみたい

95%

規制強化が
必要と回答

33%

エキゾチックペットに
触れてみたい

©NASA



人と野生生物が共に自然の恵みを
受け継ぐ世界を目指して、
活動しています。

together possible. wwf.or.jp

© 1986 Panda symbol WWF – World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund)
© "WWF" is a WWF Registered Trademark. WWF, Rue Mauverney 28,
1196 Gland, Switzerland – Tel. +41 22 364 9111; Fax. +41 22 364 0332.

詳細やお問い合わせについては、WWFジャパンのウェブサイト www.wwf.or.jpをご覧ください